

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201297		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム茨戸ふぁみりあ2号棟		
所在地	札幌市東茨戸2条2丁目50-58		
自己評価作成日	平成22年4月13日	評価結果市町村受理日	平成22年5月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日ごろから、利用者の写真を撮り、ホーム内に掲示し、御家族に、見て頂き喜んで頂いている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201297&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201297&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年4月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム茨戸ふぁみりあ2号棟」は、法人が経営する福祉施設や数ヶ所のグループホームなどが集合している一角にある。自然に恵まれた環境で利用者は畑作りや広大な敷地の散歩を楽しんでいる。さらにピクニックや畑を活用し外気に触れる機会を多くしたいと検討している。敷地内にある協力病院との連携が常にあり、夏祭りなどの行事や緊急時には法人の強力な支援があり、利用者・家族、また職員にとっても安心できる環境になっている。今後は法人内にとどまらず地域との協力体制をつくり、災害時の協力や住民との関わりを積極的に持ちたいと考えている。開設7年目を迎え、法人の統括施設長と管理者は職員と一緒に理念の実現に向けて利用者が安心して楽しい暮らしができるように熱心に取り組まれている。法人の研修体制も充実しており、職員は身体拘束、プライバシー、認知症ケアなどを学び、笑顔で利用者に接する中で、個別ケアを大切に排他自立支援なども実現させている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念として家庭的な雰囲気の中で支え合い、地域の中で、その人らしく生活できるケアを提供するという基本方針と生きがい、安心と笑顔で、仲良く、など、4つの目標を掲げ、職員一同、たえず心に刻み、方向性を確認している。	法人の複数施設の共通理念を当事業所の理念とし、また法人複数グループホーム共通の「4つの目標」を掲げ、利用者が安心して過ごせるようにミーティングなどで対応を話し合っているが、事業所独自の理念づくりは為されていない。	地域の中で支える施設理念やグループホーム共通の目標を活かしながら、事業所としての独自のケア理念や目標などを全員で作り上げるような取り組みに期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者との散歩中など、お会いする方に挨拶を交わしている。ホームで主催する夏祭りには、地域の住民を招いている。又、近くの小学校児童が、踊りを披露しに来訪され、子供達との交流もある。	事業所の夏祭りに住民を招待したり、小学校児童の訪問を受けるなどして住民との交流は得られている。今後は利用者が参加できそうな町内会の行事や身近な活動など、地域に出かけて交流を図ることも考えている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方々との話し合いを行っている。また、来客者や見学者の方にも理解をして頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、定期的開催をし、ホームの現状を理解して頂いたり、行事の打ち合わせや報告、防火訓練の報告等を行い、要望、意見を頂き活動に活かしている。	運営推進会議を定期的開催し、利用者・家族が参加する中で事業所の報告とともに意見を交換している。家族の参加率を高め、意見などは職員と共有しサービスに繋がりたいと考えている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム管理者連絡会に参加し、情報を得ている。	制度的なことや介護認定申請で市や区の担当者に実情を伝えながら相談をしている。入居の際に経費軽減など制度的な情報を家族に提供し、区の窓口を紹介している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の理解を深める為に研修会に職員一同参加し、学んでいる。日常の介助においても、身体拘束をしないケアを徹底して行っている。	「身体拘束ゼロへの手引き」をもとに、研修会で身体拘束の意味を再認識し、ベッドの手すりの使い方にも注意を払っている。玄関にセンサーを取り付け、利用者が自由に出入りができるように職員の連携で抑制をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に、管理者、職員が参加し、グループワークで、日々のケアの振り返りを行う事で再確認している。また、日常のケアでも虐待が無い様それぞれが努めている。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後学ぶ機会を設けたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、御家族に契約書、重要事項説明書取り交わし、口頭でも説明し同意を得ている。入所後は、御家族の、協力も必要に応じて頂きたい事を理解して頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を、玄関フロアーに設置している。契約時に苦情受付機関についての説明を行っている。要望、意見は、面会時等で機会を設け、会議やミーティングで話し合い対応している。	家族の来訪時に、利用者の様子を報告する中で意見を聞く姿勢で対応している。手伝いをしたい利用者の意向を話し合い、事業所内での役割をつくり要望を活かした例もある。苦情があれば苦情解決体制に沿って解決し、意見や連絡などは連絡ノートに記録し職員間で対応を共有している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや職員会議に機会を設け、話し合いを行いその都度いい状態を見出している。	毎月のミーティングで職員の意見などを取り上げ、業務の改善や対応について話し合っている。職員は年に1回法人のグループホーム統括施設長との面談があり、また管理者との話し合いも個別にあり、意見や要望を表わせる機会がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が勤務状況などを上司に報告している。上司は、職員の面談を行い把握され、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が年6回程度行っており、職員が参加できる機会を設けている。また、資格年限のあるものには、認知症介護実践者研修を受けさせている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市グループホーム管理者会議、北区グループホーム管理者会議などで、同業者間の交流を行っている。北区の管理者会議では、情報交換をしたり、職員研修など、の取り組みに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た利用者の情報を職員で共有し、声掛けにも注意しながら、本人が困った事、不安な事に耳を傾け、改善する努力をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用する前に、御家族の不安を軽減できるように面談を行っている。利用してからも、面会時などに、要望を聞く機会を設け、利用者のケアに結びつけていく様、努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に、本人の体調や、精神面を御家族から、情報を頂き、どの様な支援が必要としているのか、しっかり判断し、柔軟に対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、生きがい、やりがいをもって頂けるよう、食事作りや洗濯物たたみなどの家事作業など、各自の希望と能力に応じて役割分担をする他、趣味など、発揮できる様に配慮している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時に御家族にも協力して頂く様お願いをしている。また、面会時、電話連絡で利用者の情報交換を蜜に行い、連携をとり、共に支えている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から、交流のある方の来訪、電話、郵便物など、本人に取り次ぎ、交流を続けていける様、支援を行っている。友人と外出される方もおられる。	入居後も馴染みの関係が継続できるように配慮している。来訪した友人と一緒に外出したり、家族と連携を取りながら外泊や墓参りなど、利用者の希望に沿って支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前、午後のお茶時間にリビングに、集まり皆さんとの時間を過ごしている。また、体操、風船バレーなど、職員も混じり、みんなで、楽しめる様、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族に、いつでもホームへ立ち寄り頂ける様、説明をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから、コミュニケーションを図り、希望、意向の把握に努めている。また、カンファレンスにて、検討している。	生活歴の情報や本人との会話で意向を把握している。言葉で表現できない場合は利用者の仕草や表情を観察し、カンファレンスで話し合い、意向などを介護計画に反映させている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からや、今まで利用していたサービス機関等から、情報を得るなど、生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態、変化を記録し、申し送りにて、職員が情報を共有できるように、努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーが介護計画を作成している。本人御家族の意向、医療機関関係者からの意見を踏まえながら、カンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントでの課題をもとに、利用者・家族の意向を入れて介護計画を作成し同意を得ている。介護計画は3ヶ月ごとに見直ししており、会議では計画書と日々の記録を参考にして目標を評価し、実情に沿った介護計画を全員で話し合い作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を、生活記録に個別で記入し、申し送り、会議等で情報を共有している。評価を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院往診医、訪問看護との連携があり、利用者に安心して頂ける医療体制になっている。また、同法人のグループホームとの助け合いなど、法人機能を十分活かした対応がなされている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などによる外出や外食、買い物などの支援を行い、安全に配慮しながら、楽しんで頂いている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院による定期的な往診体制や受診体制が整っている。入所前からのかかりつけ医があり、継続の場合は御家族の協力も頂き受診できる様に支援している。	利用者のほとんどが協力病院の受診となっているが受診先の希望は可能である。2週に1回の内科医と精神科医の往診が交互にあり、治療が必要な時は歯科や皮膚科などの往診もある。通院受診が必要な時は職員が同行し、結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回全員訪問看護受け、職員は、日々の利用者の状態を報告し、受診の指示等をうけている。また、24時間連絡体制が確保されており状態の変化があれば電話での指示等を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に医療機関と連携し、情報を共有し、利用者や御家族の不安が軽減できる様、努めている。また、そうした場合に備え、往診の際に利用者の状態を報告している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化への対応や看取りに関する指針を文章で説明し、同意を得ている。入院際には、御家族と常に話し合いそれらの意向を主治医とも相談しながら方針を共有している。	重度化に伴い、継続して医療行為が必要な場合は入院治療になるが、家族の希望もあり痛みの緩和や食事の形態を工夫し、終末期を事業所で過ごした例もある。利用者・家族の意向にできるだけ沿い、協力病院と連携しながら取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部からの救命救急の講習会に参加し訓練をおこなっている。緊急時マニュアルを確認している。夜勤者は必ず人口呼吸用のマウスピースを携帯している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心として、災害時を想定した避難訓練を行っている。法人全体の協力体制も整えている最中である。	年に2回火災訓練を実施し、緊急時の連絡網や通報装置で法人の協力体制がある。訓練後に反省会をもち対策に取り組んでいるが、夜間を想定した訓練は実施されていない。	運営推進会議の議題に取り上げ、近隣の人の参加のもとに夜間を想定した訓練の実施に期待したい。また災害対策を通して住民との協力体制づくりにも期待したい。
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けをする時には、本人や周りの方が不快な思いをしないように、配慮している。	プライバシーの保護に関する法人内研修を実施している。普段の呼びかけや言葉かけに注意し、利用者の希望や意向を否定しないよう配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で、自己決定が出来る様な声掛けを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間が確認できる様に、ある程度の決まったスケジュールがあり、声掛けを行っているが、本人の意思に任せている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回床屋が来られ散髪にかかっている。本人が好む服を着て頂く等支援している。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備をしたり、食器拭きを行っている。	利用者に調理や盛り付け、下膳、食器拭きなどを手伝ってもらいながら、利用者と職員と一緒に同じ食事を楽しんでいる。畑で取れた野菜や利用者の食べたいものも献立に取り入れている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、生活記録へ記入している。また、摂取量、嗜好、形態は、その方の状態に合わせて提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや、介助にて行っている。拒否がある方は、時間をずらして対応するなどしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けで、排泄をうながしたり、排泄記録をみて、トイレ誘導を行うなどの支援をしている。	利用者の排泄パターンを把握して早めの誘導を行ない、自立支援を実現している。各居室にトイレを配置し、利便性を高めている。オムツやパットの使用も最小限に留めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや、運動への声掛けを行っている。また、医療機関に相談し下剤等でコントロールされている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴曜日は決まっているが、長くゆっくり入って頂く様に、午前、午後に時間を作り、希望の時間を聞きながら、支援をしている。	週4回の入浴日を定めているが、各利用者は週2回程度の入浴ができており、午前、午後とも入浴が可能である。広い浴室を確保し、状況によっては2人介助を行なっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣の状態に合わせて支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のリストをファイルし常に職員が確認できる様にしている。薬の変更がある場合は、申し送りや連絡ノートに記載し、情報を共有している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内の飾り作り、雑巾縫いなどの裁縫、塗り絵、食器拭き、調理補助、行事でのゲーム等を行うなど能力に応じた支援をしている。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かく天気の良い日は、散歩や畑に行ったりしている。本人の希望を把握し、外出や外食などを行っている。	入浴設定日以外の日積極的に散歩や買い物に出かけている。夏場は散歩以外に畑作りやウッドデッキでの外気浴を行なっている。冬でも月1回程度の外食機会を設けて、回転寿司やホテルのレストランに出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として職員の方で管理はしているが、本人が、買い物する際など、使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話や手紙のやり取りができるように都度対応している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花や壁飾りなどを、設置し季節感を取り入れている。スペースを広くとり、歩行の妨げにならないようにしている。大きな音や強い日差し、室温に配慮している。	共用空間は広く、居間は天井が高くトップライトもあり開放的である。花や鉢植え、家庭的な装飾が設置され、利用者の写真や塗り絵などの作品も展示されている。温風床暖房で温度が調整され、空気清浄機も稼働している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由な空間であり、会話をされる方、趣味を行っている方、TVを見ている方ソファで横になっている方など、それぞれが自由に過ごしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、使い慣れた家具や日用品を継続して使用できるように、本人や御家族と話し合っている。また、壁掛けを利用して、絵や写真などを飾る方もおられる。	居室には利用者が自由に馴染みの家具などを持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にもポスターやカレンダーなど利用者が自由に飾り付けをすることができる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てを介助するのではなく、その方の能力合わせ残存機能を引き出し、自立した支援を行っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム茨戸ふぁみりあ2号棟

作成日：平成 22 年 5月 24 日

市町村届出日：平成 22 年 5月 31 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	複数の法人施設の共通の理念や、法人複数のグループホームの共通の目標はあるが、事業所独自の理念又は目標づくりがされていない。	法人共通の施設理念やグループホーム共通の目標を活かしながら、事業所独自のケア理念又は目標などを、職員全員で作りに上げる。	職員会議で話し合い理念又は目標を全員で作りに上げる	今年度中
2	35	年2回の火災訓練は実施しているが、夜間を想定した訓練は、実施されていない。	町内の方の参加と共に夜間想定した訓練の実施を行いたい。	運営推進会議で話題に取り上げ町内の方々に参加して頂ける様、話しをする。	今年度中
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。